

【49】忘れてはいないぞ！

2003年3月に京都を中心に関西で開催された第3回世界水フォーラムの大会にオランダ皇太子（現；ウィレム・アレキサンダー国王）が御出席されました。

日蘭友好400年記念ということもあって、オランダから3隻の軍艦で編成された親善艦隊が派遣されてきました。旗艦はフリゲート艦、デ・ラウター（日本語のパンフレットによる）であとの2隻は小さい軍艦です。大阪南港の埠頭に横付けされ、デ・ラウターは一般公開されたので、水フォーラムに参加していた私も喜んで見物に行き、女性水兵さんの案内で艦内を見てまわりました。

その時、フト気付いたのです。デ・ラウターという艦名は、太平洋戦争の初頭、スラバワ沖海戦（インドネシア）で日本海軍に撃沈された巡洋艦デ・ロイテルのことではないかと。原語の艦名を読みとることが出来なかったので帰ってから調べると、やはりそうでした。デ・ロイテルもデ・ラウターも日本語の違いでした。

Michiel Adriansz, de Ruyter という人は17世紀の英蘭戦争のとき、イギリス海軍をコテンパンにやっつけた海軍の提督で、日本の東郷元帥のような国民的英雄とのことです。来日した残りの2隻のうちの1隻の小型艦の名もやはり日本に沈められた駆逐艦の名と同じでした。（ウィッテ・デ・ウィット）

こうなると話は偶然とは思えません。オランダは日本への艦隊派遣ならと、日本に沈められた艦の名を襲名した2隻（もう1隻もそうなのか調べきれず）を出して来たのでしょうか？日本語のパンフレットにはそんなことはおくびにも物っていませんでしたが、今の日蘭関係がどんなに友好的であっても、過去のことは忘れてはいないぞ、という意志が隠れているように思います。